

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

生産、受注及び販売の状況につきましては、以下のとおり事業部門別に記載しております。

なお、当社では年賀状印刷事業については、第2四半期会計期間に売上が集中し、第3四半期会計期間はレポートの精算が中心の為、生産・受注・販売がほとんど発生しないという季節的変動があります。

#### (1) 生産実績

当第3四半期会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	生産高(千円)
商業印刷事業	1,584,820
年賀状印刷事業	768
合計	1,585,589

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価格によっております。  
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当第3四半期会計期間における受注実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
商業印刷事業	1,598,837	348,819
年賀状印刷事業	768	—
合計	1,599,606	348,819

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	内訳	販売高(千円)
商業印刷事業	印刷売上	1,590,644
	折込売上	439,600
	合計	2,030,245
年賀状印刷事業	印刷売上	△1,361
	折込売上	—
	合計	△1,361
その他事業	その他売上	16,469
合計		2,045,352

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 相手別の販売実績が総販売実績の10%以上となる主要な販売先はありません。  
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3 【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、世界的な景気後退、金融危機などの影響を受け、企業収益や雇用情勢の悪化、個人消費の低迷などにより、景気の後退感が一段と強まりました。

また、当社が位置する広告・印刷業界におきましても、印刷用紙等の原材料価格の高止まりに加え、企業の広告宣伝費の抑制が強まる中、受注競争が激化するなど、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社は営業強化による受注拡大と内製化を中心とした徹底したコストダウンを進めてまいりました。

その結果、当第3四半期会計期間の売上高は2,045百万円となりました。

利益につきましては、売上増強及びコスト削減を進めたものの、原材料価格の高止まりと競争激化による受注単価低下、及び当四半期は年賀状印刷事業の売上発生がなく同部門の固定費のみ発生することから、営業損失は162百万円、経常損失は162百万円、四半期純損失は102百万円となりました。

事業の部門別の業績は次のとおりであります。

#### (商業印刷事業)

商業印刷事業につきましては、取引先の広告宣伝費の抑制が続く中、既存取引先の受注拡大と新規営業による受注獲得を推進いたしました。その結果、北海道地区の折込チラシを中心に受注が増加し、売上高は2,030百万円となりました。

#### (年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業につきましては、季節的に第2四半期会計期間に売上が集中し、当第3四半期会計期間はリバートの精算が中心のため、売上高は△1百万円となりました。

#### (その他事業)

その他事業につきましては、北海道内の3店舗のプリントハウスにおいて、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行ってまいりましたが、パソコン・デジタル技術の浸透により経営環境は依然として厳しく、売上高は16百万円となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末における総資産は、6,188百万円となり、前事業年度末に比べ461百万円増加しました。これは主に現金及び預金が414百万円、受取手形及び売掛金が51百万円、原材料が88百万円、その他有形固定資産が65百万円増加、仕掛品が38百万円、投資有価証券が76百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は4,301百万円となり、前事業年度末に比べ342百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が80百万円、未払法人税等が84百万円、長期借入金が164百万円増加したこと等によるものです。

純資産合計は1,886百万円となり、前事業年度末に比べ118百万円増加となりました。これは利益剰余金が174百万円増加、その他有価証券評価差額金が55百万円減少したことによるものです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期会計期間末に比べ139百万円減少し、1,434百万円となりました。当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は714百万円となりました。これは主に仕入債務の減少323百万円、税引前四半期純損失168百万円等により資金が減少したのに対して、売上債権の減少643百万円、年賀はがき等の立替金の減少531百万円、減価償却費95百万円等により資金が増加したことによるものです。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は59百万円となりました。これは主に有形・無形固定資産等の取得による支出65百万円等により資金が減少したことによるものです。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は793百万円となりました。これは短期借入金の純減額600百万円、長期借入金の返済178百万円、配当金の支払15百万円により資金が減少したことによるものです。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当社では当第3四半期会計期間における研究開発活動として、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動を実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第3四半期会計期間における研究開発費は1百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びその他事業においては特記すべき事項はありません。